

VALLEY LAYER

～福山大学生命工学部エリア再編計画～

suggestion

site plan

これからの大学には、コモンスペースが重要であると考える。私の考えるコモンスペースは、使用者が使用したいときに使用したいように使える場である。コモンスペースの場は、3つの場に分類する。1つ目は、教室にとらわれない「自由で多様な学びの場」。2つ目は、昼食などを取ることでできる「時間をつぶす場」。3つ目は、校舎以外とのつながり図書館やほかコモンスペースへのアクセスがしやすい動線計画による「開かれた場」である。

この提案のモデルケースを福山大学の生命工学部棟で行う。

open space

大学におけるオープンスペースには多様なコモンスペースがあり、この計画では右図の3つのコモンスペースが挙げられる。

自由で多様な学びの場

自習空間、グループワーク、少人数のゼミ

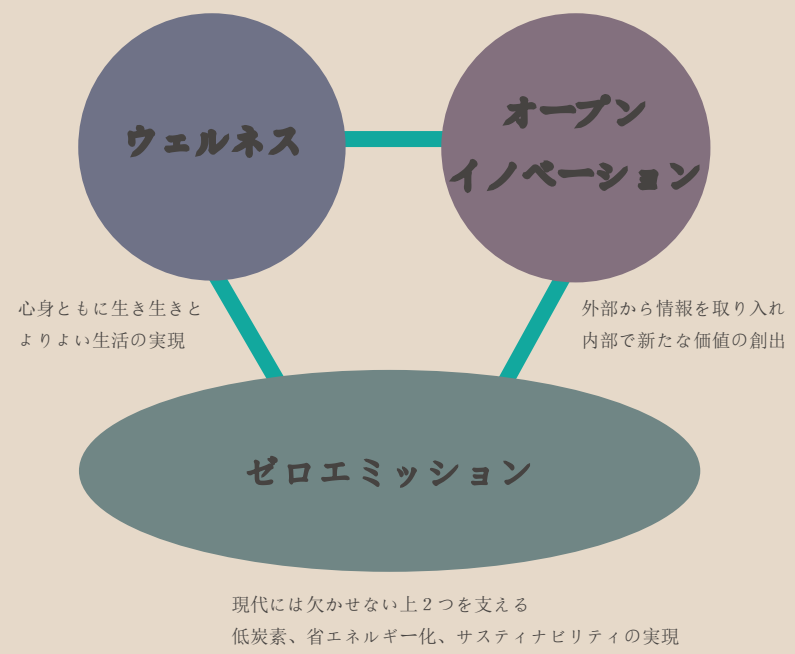
リラックスできる場

食堂、本棚や椅子の配置された場、談話室

開かれた場

外部のコモンスペースへのアクセス

図書館、庭、学生会館等



生徒の精神的、肉体的に健康な環境を作り出すためのウェルネスと新たな発展のためのオープンイノベーションの観点。それらを支えるため近年の建築にはなくてはならないゼロエミッションの3つの要素から建築を創出していく。

ウェルネス

- ・個人の多様性に応じた目的に沿った場所や方法を選択できる場
- ・屋外だけでなく屋内まで連続する緑化空間

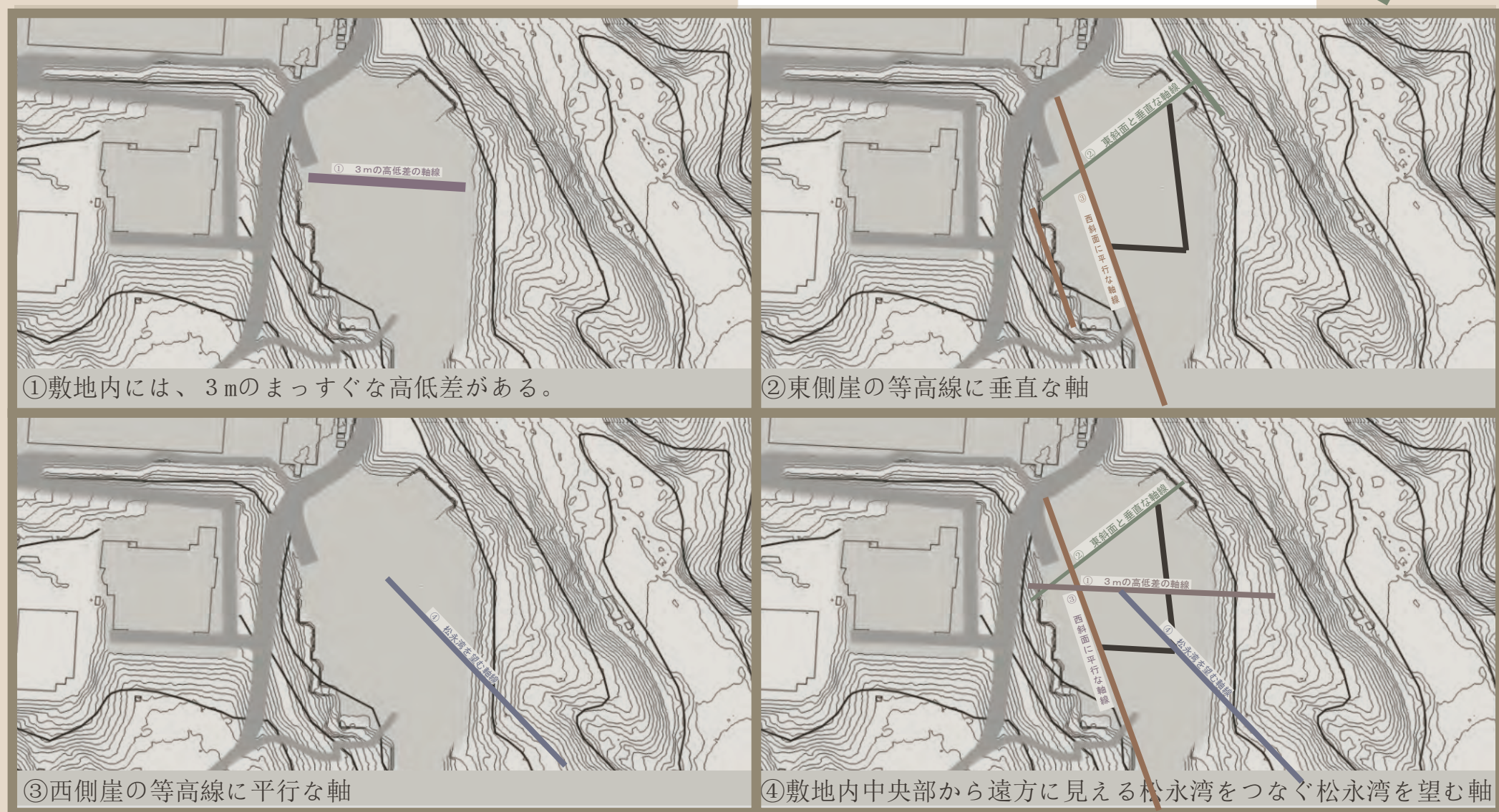
オープンイノベーション

- ・分散して各所でオンライン授業ができる
- ・学科ではなく学部単位で交流することのできる場を設ける

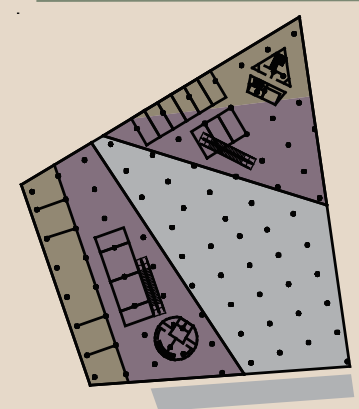
ゼロエミッション

- ・太陽光熱の利用 緑化による太陽光の調整
- ・省エネルギー化 小空間による空調の削減
- ・木材利用による低炭素化

plane site



plane area



60% casual class
オープンスペース

40% official class
授業教室、教員室、共用機器室

北東側

オフィシャル空間は、教員室、共用機器室を配置。それに伴ってオープンスペースの利用は、職員会議やゼミなど静かな落ち着いた雰囲気の利用。

南西側

オフィシャル空間は、通常の教室と共用機器室を配置。それに伴ってオープンスペースの利用は、雑談や軽い課題などを行う空間としてのにぎやかな雰囲気の利用。

